



平成 23 年度認定			
 	氏名	市原 誠 (いちはら まこと)	昭和 20 年生
	住所	兵庫県宝塚市	
	分野	観葉植物 (つりしのぶ)	
	技術の内容と活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「つりしのぶ」とはシノブ (樹木に着生するシダ植物) を球状 (直径 10 cm 程度) に成形した培養土に着生させ、培養土球の上部に紐を付け吊り下げるものである。 ・ 専業農家として 40 年間取組み、技術は全て独自に開発したものである。現在、年間 6 千球を生産、出荷している。 ・ 技術の特徴は、苗 (根茎) を林間で採種したものを使用せず、全てを自家養成 (4 年間) し、本圃栽培 (吊り下げた状態で 2 年間) 経て出荷する栽培体系を確立していること。 ・ 後継者 1 名に技術の伝承中。地域イベント等ではつりしのぶ制作教室を開き、普及活動を行っている。地域の新たな生産者を生む契機なればとの期待も大きい。 ・ 伝統工芸植物品である「吊り忍」を知らない人が多く、吊り忍作り講習会を増やし、多くの方に作っていただき、涼感、風情を楽しんでいただけるよう努力している最中である。 	
	相談・指導に 応じられる分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「つりしのぶ」作成に関する相談・指導。 ・ シノブの栽培に関する相談・指導。 ・ つりしのぶ作成体験実習の講師。 ・ 取材、視察の受け入れ。 	
国・都道府県・ 中央団体等の 受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 8 年 第 12 回全国観葉植物共進会 努力賞受賞 ・ 平成 23 年 宝塚市認定農業者 ・ 宝塚市特産物認定 		
主な役職	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 26 年～ 宝塚レジャー農業開発組合 監査役 		

	最近の活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ つりしのぶ作り体験教室を行っています。 ・ 新商品の開発に取り組んでいます。 ・ 後継者の育成に強く取り組んでいます。 ・ 規模拡大、利益率アップするよう改革を行っています。 ・ 「つりしのぶ」がふるさと納税の商品に選定されました。 ・ 平成 24 年 9 月 15 日宝塚ブランドの「モノ」部門で「つりしのぶ」が選定されました。 ・ つりしのぶ作り講習会を開催 ・ つりしのぶ作り講師の育成プラン中
	HP	つりしのぶ園 http://www5e.biglobe.ne.jp/~sinobuen/

日本産（落葉）つりしのぶの手入れ方法

この度はお買い上げいただき誠にありがとうございます。

つりしのぶには破損防止の為、竹等で保護しておりますが、除いて観賞をお願いします。

しのぶが到着しましたら、葉事水中に20秒程浸けてホコリ、土等洗い落とし、水の垂れが収まりましたら下記の場所に吊ってご鑑賞下さい。

しのぶは東北以南地方の明るい日陰の、岩壁や古木等に着生している古典植物です。寒さには非常に強く、-10度位でも生息しています。水切れにも強く1ヶ月位雨が降らなくても生息しています。根茎が老化しながら、又新しい根茎が出てその繰り返しで増えて行き、深山では20年以上生息しています。木漏れ日がチラチラ当たる日陰で、雨で濡れる場所に吊られましたら、限度はありますが少々放っていてもそれなりに生育します。日光には1年中弱く、特に夏期等、日中長時間直射が当たりますと衰弱したり枯れたりします、下記の手入れ方法を参考にして、手入れをしていただければ、より良い葉姿で長年間観賞していただけます。

12月 落葉します。通常は暖地気候、寒冷地気候の方共、屋外で半日陰位になる所に吊ります。11月～2月は休眠期です。乾燥しすぎると根茎を傷めますので、荒風の当たらないところに吊っておきます。雨水の掛かる所に吊っておきましょう。水掛けは、玉の土が乾いてから5日位経ってから十分に水掛けし、根茎をある程度太く保ちましょう。又は下記の様な保管方法もあります。末日頃に、しのぶの土がほんの少し湿っている位を、新聞紙で包み、ビニール袋に入れて、暗所に保管するのも傷めない方法です。寒冷地季候、マンション上階、風の通り道等で絶えず吹きさらされているつり忍は根茎が傷みますので、良い保存方法です。水分が多いとカビが発生する事があります。30日に1度観察してカラカラに乾いていましたら、少し湿らせて陰干しし、カビが発生しない様保管します。

1月 12月を参考にして管理しましょう。通常は寒冷地でも、自然の雨にまかせます。土が乾いてから7日位経ってから、十分に水掛けします。空気が乾燥しますと根茎が細くなりますので、根茎をある程度太く保ちましょう。

2月 12月、1月を参考にして管理しましょう。

3月 寒冷地気候の方で、保管されている方は、末日頃に屋外につります。暖地気候の方で保管している方は、初日頃に屋外に吊ります。乾いていましたら、十分に水掛けします。寒冷地気候の方は、湿らす程度に水掛けします。

肥料はハイポネックスのマグアンプ大粒を年1回5粒程(12センチ玉形の場合)、上・中部にバランス良く埋めると根茎根毛等がよく成長します。色々な形や大小有りますので12センチ玉形に入れた粒量を基本にして増減します。窒素分が少ないので4月～10月には、ハイポネックス原液を、山野草に掛ける分量1500倍に薄めて、定期的に10日に1回施すと葉色が良くなります。

濃い液肥は、しのぶを著しく傷めますので、気を付けて下さい。

4月 暖地では待望の葉の芽が出てきます。5月～10月まで、日光を70%位遮った残りの日射し30%位が一日中当たるのが最適です。木漏れ日がちらちら当たる樹木の枝下、よしの内側位が同じ環境です。生長に著しく影響しますので上記の環境に近い所につりましょう。日射しが強ければ葉は短くなり、弱ければ長くなります。日射しが強すぎれば、葉焼けして色が薄くなり根茎も傷みます。芽が葉になっている最中、水圧の強い水掛けはしないようにしましょう。葉が垂れ下がったままの癖が付いたり、よれ・しわが出来て、涼感をなくす場合があります。

涼感が感じられますよう、葉事水中に15秒程浸け、葉をしゃきっと生育させましょう。中期になりましたら強い葉に成長しますので、お好みの場所に吊られると良いですね。水掛けは、土が乾いたらすぐ、葉を傷めないよう、すぐに葉ごと水中にそっと漬け込みます(20秒位)。

5月 4月を参考にして管理しましょう。寒冷地気候の方も待望の葉の芽が出てきます。水掛けは、葉を傷めないよう、葉事水中にそっと漬け込みます(20秒位)。

6月 4月を参考にして管理しましょう。日中(9時~17時頃)の直射が長く当たりますと、葉焼けします。6~9月はアスファルト、壁等の、熱気や蒸れに、葉は弱いので風通しの良い所に吊りましょう。樹木、建物、よしず等が影になり、直射が70%位に弱くなった日射しが当たる場所に吊ります。水掛けは、6~9月は玉の土が乾燥しましたら、直ぐに水中にそっと葉ごと漬け込みます(20秒位)。葉掛け：虫類・ナメクジ・菌類・カビ類・苔類が発生しましたら、虫類・ナメクジ・カビ・コケ類は捕除し、又はスミチオン・オルトラン等効果のある薬を散布します。菌類にはベンレート・ダコニール等菌類に合わせ効果のある薬を散布します。

7~8月 涼感を楽しめる季節です。6~9月は根茎の伸びる季節です。適切な手入れをして(肥料も切らさないようにして)増やしましょう。水掛けは、6~9月は玉の土が乾きましたら直ぐに葉ごと水中にそっと漬け込みます(20秒位)。葉掛けは6月を参考にします。

9月 ぼちぼち葉が傷んでくるものもあります。水掛けは、土が乾燥しましたら、葉ごと水中にそっと漬け込みます(20秒位)。

10月 半日陰が良いです。黄葉してきます。水掛けは、土が乾燥しましたら、十分に水掛します(20秒位)。

11月 半日陰が良いです。黄葉して晩秋の風情を醸し出します。水掛けは、土が乾燥したら十分に水掛します。

[セッコク欄]しのぶよりも水切れ、寒さ等、強いので、しのぶと同じ手入れをします。通常は、滅多に枯れる事はありません。

[鷺草] つりしのぶと同じ手入れをします。芽が出て、伸びている最中に水を切らすと葉がしおれ、枯れる原因になりますので、球根根元に水掛けをして、しおれさせないようにしましょう。

[羽蝶蘭]土が乾き気味の方が良いです。開花後はしのぶと同じ手入れをします。通常でしたら来年も花が咲きます。

[ギボウシ]つりしのぶと同じ手入れをしますと、普通に生育します。

羽蝶蘭、鷺草、ギボウシ等は植え込みますと通常は花が3年位咲きますが、しのぶの生育を優先する手入れをしますと、手入れや環境が合わない場合、球根が腐る事もあります。